



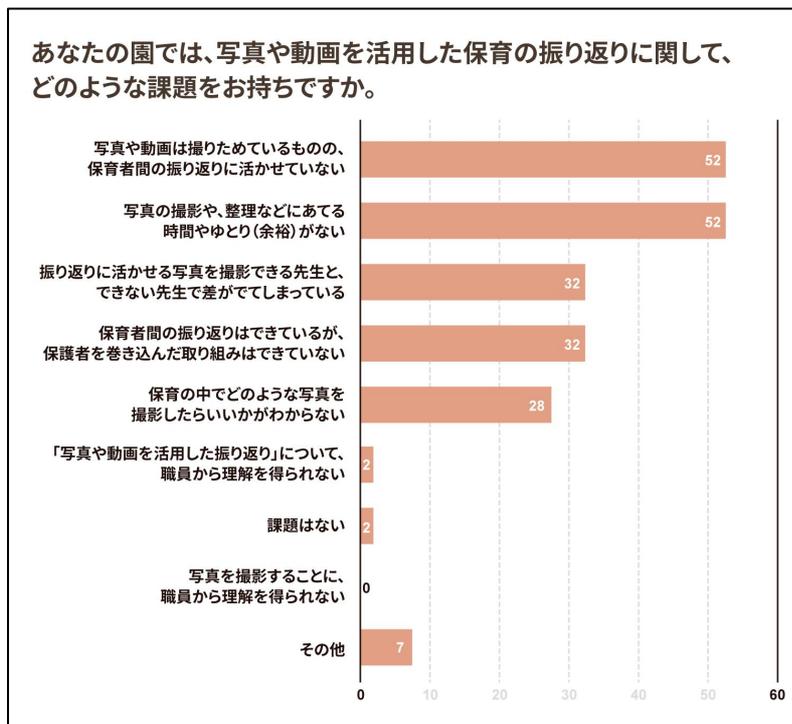
- 特集1:往還型「ドキュメンテーション活用」コースのリアルな成果速報。
参加者はポジティブな変化を実感
- 特集2:「福岡市実証実験フルサポート事業」でドキュメンテーションを活用し、
保育の質を上げる記録へ改善
- 「みらい保育スクール」登壇者に聞く！スクールで得られた気づきと2022年に挑戦したいこと

特集1:ルクミー みらい保育スクール 往還型「ドキュメンテーション活用」コースのリアルな成果速報。参加者はポジティブな変化を実感

ルクミーが主催する保育施設向け実践型オンライン研修「みらい保育スクール」では、園・施設の課題解決や保育の質向上を目指す先生方を、さまざまな研修プログラムでサポートしています。その中のひとつである往還型「ドキュメンテーション活用」コースは、無藤隆先生(白梅学園大学名誉教授)、大豆生田啓友先生(玉川大学教授)、川辺尚子先生(保育のデザイン研究所)をお迎えし、2021年7月から10月まで、全4回で実施しました。まずは参加者それぞれが保育に関するチャレンジテーマを設定し、各園・施設で写真を撮って持ち寄ります。その後、グループディスカッションを行うことで、写真記録とその活用を学んでいく往還型の研修です。参加者の皆さまは、参加前後でどのような変化があったのでしょうか。

参加者の事前課題の多くは「写真を撮っているが振り返りに使えていないこと」

まず、今回の研修参加者へ事前アンケートを行いました。ドキュメンテーションの活用経験がある方もいましたが、作ったことがない人も全体の約 24%いるなど、参加者の実践状況はさまざまです。写真や動画を活用した保育の振り返りに関して、それぞれの園・施設の課題を聞いたところ、以下のグラフのように、「写真や動画は撮りためているものの、保育者の振り返りに活かしていない」「写真の撮影や、整理などにあてる時間やゆとり(余裕)がない」「写真や動画を撮りためているものの、保育者の振り返りに活かしていない」という課題が最も多く、それぞれ52%と32%の割合で課題を抱えていることがわかりました。



研修ではチャレンジテーマに沿って実践

研修は、4回にわたって以下の流れで実施しました。

《プログラム》

- 1回目「保育の質向上のポイント」の講演を聞き、園の現状と目指す保育を踏まえ、「チャレンジテーマ」を考える
 - 2回目「チャレンジテーマ」をもとに写真を撮影して持参し、「写真の読み取り」「資質能力の読み取り」を行う
 - 3回目「チャレンジテーマ」をもとに写真を撮影して持参し、ドキュメンテーションを作成。「子ども」や「保育者」の視点で写真を読み取る
 - 4回目「ドキュメンテーション」を発表（成果発表）
- 初日には、大豆生田先生より以下のような講義をしていただきました。

- ・ドキュメンテーションは保護者に発信するためのツールではなく「記録」であること
- ・ドキュメンテーションは毎日続けることが大切。継続して今日の子どもの姿を振り返り、明日の保育計画に活かすことが大切であること。
- ・「園ではこんな風に大事なことがありますよ」ということが見える化されることで、保護者は協力的になってくれる。それがただ写真を出すだけとの決定的な違いであること

講義のあと、各自のチャレンジしたいテーマに合わせてドキュメンテーションを実践していくという流れです。

研修後は「子どもの理解が深まった」など参加者の多くが変化を実感

4回の研修を終え、参加者にはどのような変化が見られたのでしょうか。

4回目の成果発表の例で具体的にご紹介します。

例：牟礼保育園 山本先生のドキュメンテーション

※吹き出しは、大豆生田先生がよいと好評されたポイントを、編集部で加筆

A22 牟礼保育園 山本ひろみ

《チャレンジテーマ》

毎日のドキュメンテーションをいかし、子どもの姿に着目した環境づくりをめざす

《チャレンジテーマを設定した理由》

初期の大豆生田先生の研修を受け、自分の保育を振り返った時に「この時期はこの玩具、この遊び〜。」と毎年の流れができていて、子どもたちが主体的に遊べているのかな。と感じた。子どもの姿や興味関心が、こんな遊びを取り入れたらいいといった保育者のねらいにプラスされることで遊びが発見し、それがチームに繋がっていくのではないかと考えたため。

▼この研修で取り組んだこと

- 毎日子どもの姿を写真に撮り、ドキュメンテーションを作成する。
- ドキュメンテーションを作成しながら一日を振り返り、子どもの姿や遊びの様子をじっくり観察する。また、その振り返りが次の日の保育につながるようにしていく。



→ままだと遊びのときに今までは地べたで遊んでいたが、だんだんと棚の上や積み木を台にして遊ぶ子が増えてきた。また、ままだとものが保に散らしてしまう事が多かった。



→今までは一種のかごの中にチェーンリングをいれていたが色に興味を示し始めたので、色を分けて収納するようにした。→遊びの中でもお皿に色ごとに盛り付けたり、「イチゴアイス」と言いながら色のチェーンリングを入れたりするなど、色を整理しながら遊ぶ子が増えてきたように思う。また、色分けが楽しくて、片付けもスムーズに行えるようになってきた。



→職員がコロナ対策で消毒をしているのを見届けている子どもたち。ハンカチを持ち、擦りおもちやを試している。（ハンカチや霧吹き、スポンジなど遊びで使えそうなものを増やしてみた。）

→ままだとスペースに物を置くことで、丁度いい高さで料理をしたり、友達とパーティーをして遊ぶようになるなど、集中して遊びたむようになつてきた。

《学んだこと・気づきや変化》

- 毎日ドキュメンテーションを作成するようにしたことで、写真を通して1日の保育を振り返るようになった。また、「明日はこうしてみよう」など次の日やその先の見通し・計画につなげることができた。
- 子どもの姿に目を向け続けることでその子への理解も深まり、子どもの気持ちや思っていることが少ずつわかるようになってきた。さらに、「こんな遊びするんだな。」「ooちゃん遊ぶんだ」など、子どもの変化に目が向くようになった。
- 子ども同士の会話や遊びが自然と見えたり聞こえたりするようになってきたので、ドキュメンテーションを作成するときも文面が浮かびやすくなってきたように思う。

《今後の目標・継続していきたいこと》

子どもの姿をキャッチしたときに、柔軟に対応できる保育力を自分が身に付けていきたいと感じた。そのためにも、毎日のドキュメンテーション作成を続けていき、子どもを積み取る習慣づけを行いたい。また、今は自分だけのドキュメンテーション作成だが職場の先生同士、保護者とも共有する中で様々な視点から子どもたちを見ることができるようになっていきたい」と感じたところ

ココがGOOD！

毎日、ドキュメンテーションを作り振り返りしている。

ココがGOOD！

「去年こうしてたから」と計画をコピーするのではなくドキュメンテーションでとらえた子どもの姿をベースに計画につなげることができている！

ココがGOOD！

自分だけのドキュメンテーション作成を職場内・保護者とも共有する中で「様々な視点から子どもたちを見ることができるようになっていきたい」と感じたところ

今回研修に参加された、保育士 12年目の山本先生。

研修1回目の大豆生田先生のお話の中で、「この時期にこの遊び、このおもちゃ、と決まっていますか」との言葉を受けて自身を振り返ったところ、例年そうであったことに気づいたそうです。

そこで、「子どもの姿や興味関心と、保育者である自分が取り入れたいと考えたねらいが重なったときに、子どもたちが楽しみブームにつながっていくのではないか」と考えた山本先生。

研修でのチャレンジテーマは、「毎日ドキュメンテーションを作り、子どもたちの姿に着目した環境づくりをすること」として、ドキュメンテーションを実践されました。

発表のドキュメンテーションでは、子どもたちの遊ぶ姿を写真でとらえ、遊んでいる場所や子どもたちの色への興味、大人のしぐさをまねる子どもの姿などさまざまな気づきを振り返り、環境づくりを実践する様子を発表されました。

今回の研修でドキュメンテーションを作る際、山本先生は職員室で作っていたそうです。

その際、以下のようなことを感じたといいます。

- ・作業中、他の先生と写真を見ながら「こうでね、ああでね」と話す機会が増えるので、自分とは違う目線での意見を聞いて勉強になる
- ・同じクラスの職員も常にカメラを持って異なる目線で写真を撮ってくれるので、「この子がこうでね、ああでね」という会話で他の目線を知ることができて勉強になっている。

これに対し、講評の大豆生田先生からは「保育は自分のパターンが決まってしまうから、他の先生の目線で意見をいただいて勉強することはすごく大切」というお話がありました。

参加者の皆さまも、「ドキュメンテーションというツールは、ただの記録ではなく、周囲の先生の目線も取り入れて子ども理解を深めながら、子どもの姿ベースで、明日の保育を考えていくツールである」と再認識できたようです。

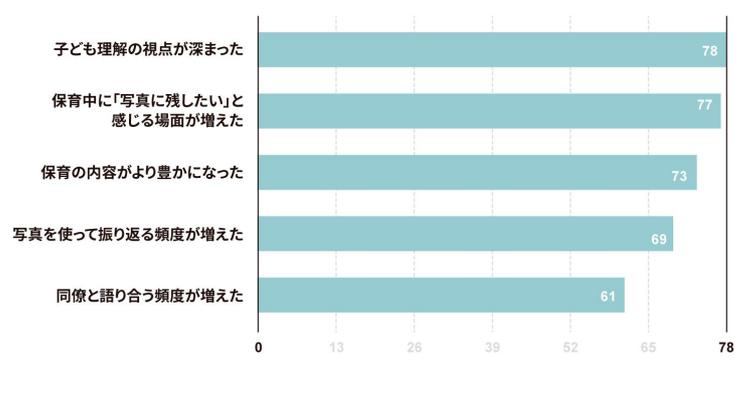
4回目の終了時に実施したアンケートでも、「子ども理解の視点が深まった」「『写真に残したい』と感じるシーンが増えた」に対して、ほぼすべての参加者が「はい」と回答。

保育の質向上に直結する「保育者の子ども理解」が深まったことがわかりました。

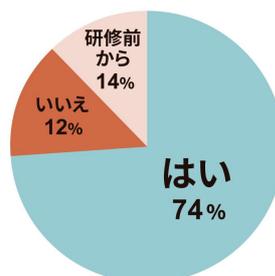
また、「写真を使った振り返りを保育の計画に活かすようになったか」の質問に対しては、研修前から取り組んでいる方を含め、88%の参加者が活かす状態になったと回答。

無藤先生と大豆生田先生が「保育の振り返りを明日の計画に活かすようになることが大事」とおっしゃっていたように、まさに理想的な変化が多くの変化者に見られました。期待した成果を感じられた今回の研修。参加者の方々には、学びを今後の保育に役立てていただけたらと思います。

研修を経て、変化があると感じた項目について「はい」と回答した人数(全78人)



研修を経て、写真を使った振り返りから保育の計画に活かすようになりましたか。



特集2:「福岡市実証実験フルサポート事業」でドキュメンテーションを活用し、 保育の質を上げる記録へ改善



AIやIoTといった先端技術等を活用したプロジェクトを福岡市が支援する「福岡市実証実験フルサポート事業」。

ユニファでは、日々の連続性のある写真付きドキュメンテーションを ICTを用いて活用する事で、現場の負担を増やさずに、保育の質の向上を目指す取り組みを福岡市の園と共に進めています。

この事業に参加した園では、写真の撮影からドキュメントの作成、周囲への共有までをタブレットやパソコン等の端末で行い(ICT化し)、保育士の業務負担の軽減や、保育の質の向上についての効果を検証していきます。

そして、参加した園に集まっていたいただき、「ルクミードキュメンテーション」(※ 1)の活用結果を共有する座談会を開催。

そこで共有された結果の中から、今回は「さいとみんなの家」さまの事例をご紹介します。

ルクミードキュメンテーションを活用し、テキストのみから写真つき記録へ



写真つき記録によって、子どもの様子や育ちの理解が深まった



実際にルクミードキュメンテーションを使ってみて、さいとみんなの家の先生方からは以下のような意見が聞かれました。

- ・写真つき記録になることで、子どもの姿を保育者同士で共有しやすくなった。
- ・子どもの様子について具体的な話がしやすいので、明日の環境づくりなどの計画を考えやすくなった。

さいとみんなの家さまと同様の取り組み始めている(これから取り組もうとされている)園関係者が参加した今回の座談会。

参加者からも以下のような声が聞かれ、「ルクミードキュメンテーション」を使った記録の可能性を感じられる会となりました。

- 写真での「ヒトコマ」から生まれる気づきがつながって、大人も子どももワクワクするような保育実践が実現できるのではないかとあらためて感じました。
- 実際に取り組んでみて、子どもの育ちの理解や興味関心が深まった。今後も実施して、より職員との対話を深めていきたいと思った。

※1:「ルクミードキュメンテーション」とは、先生が撮った写真にコメントをつけて記録できる、新登場のツールです。保育の一場面での小さな気づきや発見を「ヒトコマ」で残し、「ヒトコマ」をつなぎ合わせた学びのプロセスを「ストーリー」として束ね、ドキュメンテーションを作ることが可能に。個々の保育の振り返りだけでなく、同僚とも日々の気づきを気軽に共有できるようになりました。

※2: 保育の記録に関しては、福岡市と弊社(ユニファ)とで「福岡市が参考として示している様式を必須としているものではなく、その他(独自)様式でも差し支えない。監査基準に照らし、様式に示している必要な項目と内容等が記載されていれば、その記録方法が「記述のみ」でも、「写真付き記述」でも問題ない。」と確認しております。

「みらい保育スクール」登壇者に聞く！

スクールで得られた気づきと2022年に挑戦したいこと

ルクミーが運営する、保育施設向け実践型オンライン研修「みらい保育スクール」。

経験豊富な保育者の方々、みらい保育アンバサダー(よりよい保育を目指したい園・施設に伴走するパートナー)の方々とともに、「園・施設の課題解決」や「保育の質向上」を目指すスクールです。

みらい保育スクールにご登壇頂いた先生の中から、今回はお 2人のコメントをご紹介します。

Q1. みらい保育スクールで、他のアンバサダーの先生や受講者の方のお話を聞いて、新しい気づきがあれば教えてください。

かがやきの森保育園うえだ園長 今津 太陽 先生

アンバサダーの先生たちとの話し合いで、僕自身が理念の大切さを痛感することが多かった。そして「理念を変えてもいい」という考えも、なぜか固定観念から変えられないものだと思ってしまっていた自分がいた。時代の流れ、園の状況により、臨機応変に変えていくことも進化のために必要なことだと学んだ。何より、10年後、20年後を見据えた保育の形を考えさせられた。受講者の話から感じたのは、やはり、ここに参加される方はすでに意識が高いということ。今の現状を何か変えたい！そんなエネルギーを感じることも多かった。そんな方たちに伝えていくことは意識改革、現場改革等がしやすいと思うので、往還型の研修は行動へ移しやすいことも感じた。

Step Up 統括管理者 村本あすか 先生

★みらい保育スクールの先生方は、『保育が大好き』であり、『人が好き』であると共に『他者を思いやる心』がある方で、お話していると自然と笑顔になれたり、安心してお話ができる先生方ばかりです。何より、ポジティブな姿の印象しかなく、先生方と話しているだけで元気が出てくるというところが不思議だなと感じていました。でもこれは、お互いを認め合い、年齢や地域、園の形態等、本当に関係なく、垣根を越えて、それぞれの先生の姿、思い、実践をまっすぐに「いいね！」「すごいね！」とそのとき感じた思いをストレートに伝えてくださる先生方の言葉、言葉の裏にあるあたたかい思いを感じられたからだと思います。とにかく、素敵な先生方です！

Q2. 来年2022年度、ご自身(またはご自身の園で)やってみたい事があれば教えてください。

かがやきの森保育園うえだ 園長 今津太陽 先生

・立ち上がって2年目になる園ですので、理念の浸透率を確認。(さらに進化するための理念の変更も視野に入れている)
★子ども主体の行事の見直し。例えば、運動会や発表会は本当に必要なのか。“子ども主体”を職員と共に真剣に考え、保護者から理解を得る答えを出していきたい。
・2年目の園でも実現可能!?休憩時間 1時間+事務時間(最低30分、欲を言えば1時間)を生み出せる方法。
・ゴミで遊ぶレミダの部屋を完成させ、主体的に遊べる面白空間を演出。
・地域の店からゴミが集まる園作り、地域へ子どもがお仕事体験に出かける流れ作り。
まあ、とにかくやったことのないこと、面白いことをどんどんやっていくつもりです！見たことない保育風景を見るために、これからもグイグイ楽しんでいきますよ♪

Step Up 統括管理者 村本あすか 先生

★おもいきり保育を楽しむこと！『思いきり』を突き抜けていきたいと思いました。なんだか『掃除が大変だしな……』と、ためらっていたところもあったけど、おもいきり突き抜けた先に、子どもの興味、関心をより感じられるのではないかと思います。
あとはやはり、職員間での伝達方法等は、試行錯誤をしながら変化させていければと思っています！

貴重な気づきや率直なコメント、ありがとうございました。

ユニファでは今後も、園・施設の課題解決や保育の質向上に向けて、ルクミー みらい保育スクールを開催していきます。

2022年もさまざまなコースを用意し、よりよい保育を目指す先生方をサポートしますので、ご参加お待ちしております！

▼ルクミー みらい保育スクールの詳細とお申し込みはこちら

<https://lookmee.jp/mirasuku/>

※パソコンやスマートフォンからは、「ルクミー みらい保育スクール」で検索